

Diagnostic Performance of 48-Hour Fasting Test and Insulin Surrogates in Patients With Suspected Insulinoma

植田, 圭二郎

<https://hdl.handle.net/2324/1806869>

出版情報：九州大学, 2016, 博士（医学）, 課程博士
バージョン：
権利関係：やむを得ない事由により本文ファイル非公開（3）



(別紙様式2)

氏 名	植田 圭二郎			
論 文 名	Diagnostic Performance of 48-Hour Fasting Test and Insulin Surrogates in Patients With Suspected Insulinoma			
論文調査委員	主 査	九州大学	教授	康 東天
	副 査	九州大学	教授	北園 孝成
	副 査	九州大学	教授	中西 洋一

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

インスリノーマ診断の gold standard は 72 時間絶食試験であり、優れた感度が報告されている。しかし、患者と医療スタッフともに負担が大きく、絶食期間の短縮が試みられている。また、低血糖を起こす他の疾患でも絶食試験陽性となることがあるが、その特異度について十分な検討はされていなかった。本研究では、インスリノーマ診断における 48 時間絶食試験と insulin surrogates の有用性が検討された。

インスリノーマが疑われて 48 時間絶食試験とその後のグルカゴン負荷試験をおこなった 35 症例(Insulinoma 群:15 症例・Non-insulinoma 群:20 症例)を対象とした。絶食期間、絶食終了時の血糖値、血清中のインスリン値と C ペプチド値、insulin surrogates である血清中の β ヒドロキシ酪酸と遊離脂肪酸、グルカゴン負荷試験に対する血糖値の反応性(Δ plasma glucose; Δ PG)を測定した。

インスリノーマ診断における 48 時間絶食試験は感度 100.0%、特異度 80.0%であった。インスリンは感度 69.2%、特異度 100.0%、C ペプチドは感度 100.0%、特異度 6.3%であった。insulin surrogates では Δ PG が感度 93.3%、特異度 75.0%で正診率 82.9%と最も優れていた。続いて 48 時間絶食試験とその他のパラメーターを組み合わせることでインスリノーマにおける診断能を評価すると、48 時間絶食試験と Δ PG の組み合わせが最も優れており、感度 93.3%、特異度 95.0%、正診率 94.3%であった。

以上の結果から 48 時間絶食試験と Δ PG を組み合わせることで、従来法より短時間で、より正確なインスリノーマの診断が可能であることが示唆された。

発表のあと、専門的立場から種々の質問を行ったが、おおむね適切な回答を得た。よって主査副査3人の委員の合議の結果、試験は合格とした。